

を捧げたところ、ナチス嫌ひのロンドン見の花輪を盗まれたのだ、有色人種蔑視の外交政策を黨大會で發表したのだと、新聞を賑はしてゐる。

彼は一八九三年の生れだからまだ若い。黨外のノイラート外相に代つて早くその手腕を發揮してみたいであらうが、外交は最も慎重を要する。海外に信望ある元老ノイラート男を凌いで外相たるには、まだ一段の修業が必要であらう。

とはいへ彼も相當の人物ではある。エストニアに生れ、リガとモスクワの工科大学に學んだ技術家出身であるが、ユダヤ人排斥とボルシエヴィキ攻撃の果敢な闘士として青年時代から鳴らしてゐた。著書も「ユダヤ人の移住の足跡」「ロシアのベスト」「國家の敵ユダヤ主義」など、殆ど一貫して彼の立場を鮮明にしたものばかり。

歐洲大戰の時は、露國、ポーランド、ドイツと、東歐諸國を股にかけて明躍、暗躍したものだ。ドイツにヒットラーありと聞いてその傘下に加はり、ミュンヘン一揆のとき、領袖ケルナの屍を越えて突進し、警官隊の一斉射撃にビストルを揮つて立向つた勇猛な一面をもつてゐる。一九二三年にドイツ國民の國籍を獲得し、ナチスでは黨の機關紙フェルキツシャ・ベオバハターの主筆として重きをなした。

日獨間に南洋委任治統領問題がもち上つた時、われ／＼日本新聞記者團は、ナチス外交部長ローゼンベルクにインタヴューを行つたが、そのときの彼の態度など、われ／＼に好感を與へたものだ。彼は一言も外交辭令を口にしなかつた。そして學生のごとく率直に眞摯に、しかも異常な熱情をもつてわれわれに語つた。そしてこんなこともいつた。

日本は三國干渉事件のドイツを云々するが、然らば日本はドイツに對してどんなことをしてゐるのだ。大戰には聯合國に加擔してドイツを敵としたではないか。また最近では英米の尻馬に乗つて、ドイツにとつては死活の問題であつた上部シレジア地方の分割問題について、日本はドイツが頼みにしてゐた最後の一票を投じてドイツに不利な解決を與へてしまつたではないか。このときほど、われらを悲憤せしめたものはないのだ。滿洲を生命線だと主張する日本はドイツの生命線を英米に引きずられて放棄せしめたではないか。常に大國の鼻息をうかゞふ日本は外交こそ反省を要すべきだ。

彼は膽太きものごとく、がつしりと落ちついてゐる。彼は率直であるが一本調子に過ぎて遠謀深慮に缺くる憾みがある。ナチスの外交が振ふときはすなはち彼の人物が圓熟したときであらう。

最後に、近ごろ新らしく無任所大臣として入閣したルドルフ・ヘッスは、かつて黨の人事部長であり、兼ねてヒットラー氏の秘書であつた。ヒットラー氏が天下をとつてからは、黨におけるヒットラー氏の代理となり、隠然たる勢力を黨の内外にもつてゐる。彼の特徴的な顔はドイツ人としても異例に屬するであらう。太く八字型に下がつた眉も印象的だが、どこことなく東洋的な感じを與へる顔だ。

彼の生れはエジプトのアレキサンドリア市、富商の息子で、十四歳まではその地で育てられてゐた。しかし、彼がれつきとしたアリアン族であることは、父がフランク族であり、母はヴンジードルに發祥するスイス人だといふことを彼の人物傳にはことわつてある。彼を駱駝に乗つた隊商の伴だと思つたら叱られるわけだ。

彼は父の商賣を繼ぐ意味でラインのゴードスベルグに遊學した。ところが間もなく歐洲大戰となり彼は父の祖國を愛するあまり志願兵となつて、ミュンヘンのバイエルン歩兵第一聯隊に屬して従軍した。西部戦線やルーマニア戦線で幾度か負傷し、大戰の終りごろには少尉に任ぜられてミュンヘンの親衛隊の補充部隊に派遣された。

奇遇といへば奇遇だ、この補充部隊には後の宰相ヒットラー氏が一兵卒として屬してゐたの

だ。そして共に戦線に出たこともあつた。そして兵卒ヒットラーは毒ガスの洗禮を受けて失明しかけたこともあつたが、いまだこの兩者は語り合ふ機會はもたなかつた。このころのヒットラー氏は、今のようにチャプリン型のひげではなく、サーベルのように長い八字ひげを顔一ぱいに生やしてゐたから誰か今日あるを豫想しただらうか？

ところが、やがて休戦、講和、革命と、眼前の世相はめまぐるしいテンポで推移した。兵卒ヒットラー氏は直に反革命兵卒委員會を組織して政治運動に走り、少尉ヘッス氏は再び商人を志して經濟學と歴史とを勉強し、かたはらミュンヘンにあつた國粹團體ツイレ社に加盟して赤色政府に對する反撃闘争に参加したりしてゐた。そして偶然ある晩右翼愛國團體の會合で、ヒットラー氏と顔を合したのが機縁となつて、彼は商人の志望を一擲すると共に、ナチス黨員としての戰鬥的生活が展開されたのである。

例の一九二三年のミュンヘン一揆では、彼は本部のビヤホール・ホーフプロイに立籠つて、警官隊と社會民主主義者を向うに廻して大亂闘を演じビール罎でしたゝか頭を毆られた。その裂傷は今日二錢銅貨大の禿となつて、その痕跡を頭上にとゞめてゐる。

彼、本年四十一歳。閣僚中ゲツベルス宣傳相に次いで年少者だ。將來ある人物として記憶に

とよめておいてよいであらう。

七、兵團指揮者五人男

全國民のナチス化！ このモットーをふりかざして兵團化されたナチスの全機關は活潑な活動をつづけてゐる。男子七歳になると、少年兵團に入るのだ。十二歳から十八歳まではヒットラー青年兵團で鍛へ上げられる。これは學生でも、徒弟でも區別はない。かくてヒットラー青年團を出發點として、あるものは労働奉仕兵團に入り、荒蕪地の開拓、灌漑などに共同奉仕の汗を味はひ、出でて一定の職につけば、労働戦線の戰士として組織される。またあるものはヒットラー青年團から國防軍に入つて兵士となり、あるものは突撃隊(SA)に入つてナチスの支柱として戦つふ。老いたるものはSA豫備隊、後備隊に編入される。つまり彼の一生は兵團化されたナチスの組織の一部として終始變ることはないのである。女性ならば、少年兵團およびヒットラー青年團の少女部に編入され、長じては「女は家庭へ」歸らしめられるのだ。

ナチスの完備した新陣容が、以上の如きものであるとすればその各種兵團を卒ゐる指揮者を、ナチス・ドイツ政界の新人として一瞥しておくことも必要であらう。まづ先陣は少年兵團、青年團の指揮官だ。最近「全國青年指揮者」が出来て、以上の二つのほかに労働戦線の青年部をも統轄し、全國スポーツ部とも連絡をとつて青年のスポーツ教育をもその管制下においたが、この次代ドイツ國民養成の總指揮官たる人物は誰あらう當年廿八歳の若武者バルドウィル・フォン・シュラツハ氏だ。彼はワイマールの宮廷劇場の總監督の子として生れ、祖父はまた名優として名のあつた人だといふ。見るからに秀麗明朗、しかも仕事には獻身的で、深慮をもつて聞えてゐる。わが木村長門守といひたい男だ。ナチス學生運動に出發し、一九三二年以來ヒットラー青年團の隊長である。詩人的情操も豊かで、戦線詩集の數冊がある。

次は労働奉仕兵團だが、現在團員廿五萬、これを卒ゐるのは國防政策の權威として聞えてゐた退役陸軍大佐コンスタンティン・ヒール氏だ。一九二四年退役とともにナチスに入り、長らくその労働奉仕部長として研究を積んで來た。失業者を救済訓練し學生や青年を訓練して階級の區別なく國家に労働奉仕せしめるといふ。彼の卒ゐる兵團は現在の自由志願制を脱して、義務的の國民奉仕となれば、その勢力はその新らしい企てとともに各國注目の的となるであらう。労働戦線

は各種労働組合を打つて一丸としたもの。この戦線の労働戦士一千六百五十万人と注せられ、これに官吏および音楽や文筆の職業人、企業家を加算すると二千二百万人を数ふ。この廣汎な労働戦線の指揮官は化学工業技師出身のロバート・ライ博士である。丸々した體軀、裕福さうな顔つきで、インテリらしい態度を失はないが、しかしその實頗る鬪争的氣魄に富んだ一個の闘士である。大戦に航空兵として出征し、西部戦線で重傷を負うたこともある。一九二五年南ライン地方のナチス支部長となり、主として重工業地帯の宣傳戦に活躍し、その雄辯と熱とで多數の黨員を労働者層から獲得した功勞者だ。現在はナチス政治機關總長をも兼ねその存在を重からしめてゐる。

清黨事件でレーム隊長を失つた突撃隊(SA)は、新たにヴィクトール・ルツツエ氏を迎へた。彼は突撃隊の生え抜きであるが、眞面目で危つけがなく、二百五十萬の闘士を卒ゐるには適當であらう。先ごろまで突撃隊地方支部長のかたはらハンノーヴァ地方の警視總監、知事をしてゐたが、その堅實な治績を買はれて一躍この重職に就いたので。獨眼龍だが、睨みは相當利いてゐるはずである。

以上の各種兵團のほかに、親衛隊(SS)がある。隊員卅萬と傳へられ、清黨事件後ゲーリング

航空相の掌握する國家秘密警察の仕事に親衛隊が兼務し、その護國隊としての面目をそなへて來たが、この隊長ハインリヒ・ヒムラー氏は、ヒットラー氏から最も信任されてゐる一人だ。一九二三年十一月のヒットラー氏の起したミュンヘン一揆には、彼はバヴァリア陸軍省占領の一隊の旗手として奮闘した。その後親衛隊に所屬し、ヒットラー氏への一貫した忠誠で今日の地位を得たものである。

すでにナチスがドイツであり、ドイツがナチスである今日、一介の伴食大臣たるよりは、ナチスの根幹たる諸兵團の指揮官をもつて任ずる方が、實際的にはより強大な勢力をもつものといひ得る。その意味で以上のライ、ルツツエ、ヒムラー、ヒール、シラツハの諸氏はナチス兵團五人男とでもいふところであらうか。

八、ナチス經濟とシヤハト博士

少し話は古くなつたが、一九三四年八月七日、東プロイセンのタンネンベルグ古戰場で、故ヒ

ンデンブルグ大統領の國葬のあつた日の午下り、葬儀が終るとドツと數萬の會衆が、葬場から驛に向つて殺到した。何しろ涯しない野ツ原の一角にある田舎驛のことだ、十分おきに臨時列車を頻發させてゐるが、これだけの人間を短時間にベルリン方面に運び去ることは容易でない。僕は揉み合ふ驛前の雑踏を木蔭に避れて、今し彼方のプラットフォームで車窓から上半身をつき出した猛將マツケンゼン元帥が、握手を求める人々に愛嬌をふりまいてゐる鬚髯たる姿に見入つてゐた——と突然耳の傍で「何だつてこんなところへ自動車なんか乗り入れるんだ！自動車ならあそこに溜場が定めてあるぢやないかッ！」と怒鳴りつける聲がした。

見ると、先刻から汗みづくで交通整理に當つてゐた褐色服の突撃隊員が、黒塗りの高級自動車を叱りつけてゐるところだつた。その自動車の陽に光るガラス窓の中には、シルクハットの下に見覚えのある顔が微笑んでゐた——。

やがて、自動車が指定された場所へ走り去ると、近くにゐた警官がとんで来て「オイ君！今はシヤハト博士だぜ、注意し給へ！」といふと「そいつあ知らなかつた——」と、聞かされた突撃隊員はひどく恐縮して、大男に似す首を縮めて苦笑してゐた。

大臣が交通巡查に叱られてゐる圖なら日本でも珍らしくない。だが、ナチスにあらずんば人に

あらずのドイツで、ナチス要人以外は眼中にない突撃隊員が、その名を聞いただけで、こんなにも恐縮する光景はちよつと珍らしかつた。なるほどナと、最近急に勢威を加へて來たシヤハトの地位を肯定せざるを得なかつたのだ。

一口でいへば、シヤハトはドイツの高橋是清だ。もちろん達磨翁より年は若い。しかし國立銀行總裁として非常時ドイツの財政を一人で背負つて來た彼が、更にシュミット氏の後をうけて經濟大臣を兼ね、も一つプロイセン經濟相をも兼ねて、ドイツ全國の財政經濟に關する獨裁權を一手に掌握したのであるから、彼これは經濟國難に直面せるドイツの大黒柱といふべきだらう。もしそれ、國債問題をもち出すなら、彼は大借金國の大番頭として、片やイングランド銀行總裁モントーギユ・ノルマン氏と共に兩横綱を張る世界的財政家だ。ナチスも目下はシヤハト様様であるそれだけの尊敬と信用とが無ければ、誰も引受け手のないナチスの經濟政策を引繼いで、難局にあるドイツ經濟の起死回生の大役を買つて出る者は無からうではないか。

が、一にもシヤハト、二にもシヤハトといふと、ドイツには大藏大臣がゐないようだが、ゐることはゐるのだ。パーベン、シュライヒャー、ヒットラーと三代の内閣に歴任してゐるフォン・クロージクといふ立派な大藏大臣がゐる。しかし、ドイツの藏相は日本の藏相ほどの權威がな

い。金利引下げ問題や外國との國債問題および貿易勘定等の重要な政策の決定は、すべて國立銀行總裁即ちシャハトの手にあるのである。フォン・クロージク藏相は、いはゞロボットでナチス出身の經濟理論家達が勝手に引掻き廻すことから起る金融界の恐慌に對するブレイキの役目をつとめてゐるに過ぎないのだ。彼が藏相の椅子に腰を下ろしてゐる限り、國內も國外も財界はある程度の安心が保てるのである。彼は自分の現在の地位をチャンと知つてゐるから、あへて表面に出しやばらない。生粹のナチス黨員で大藏次官のラインハルト氏が省務の一切を切り盛りして躍起になつて活動してゐる。

大藏大臣がこのような存在だとすると國立銀行總裁で經濟大臣を兼ねたシャハト博士の存在が益々光つて来る。序でに大藏大臣をも兼ねてゐるような調子で、ドイツ經濟全局面にシャハトの一舉手一投足が大きく投影するのだ。従つてシャハトの動きをみる事が、今度のドイツ經濟界の動向を推察する鍵だといふことが出来やう。

ナチスの政策は、その政治的方面において著しく進展した。全國黨大會で放たれたヒットラー總統の言をかりていへば「ナチ黨がドイツ國家の全權力の把持者」となつたのである。が、それに反して經濟的方面では實に迂餘曲折のジグザグ道を辿つて來た。單に人事の異動から見ても經

濟大臣は一年有半の間に三度代つた。最初の經濟相フーゲンベルグ氏は舊國權黨首で重工業資本家として重きをなしたシエール新聞會社やウファ映畫會社の社長をも兼ねた大立物だつたが、ヒットラー内閣には五ヶ月の勤めで詰腹を切らされた。次いで舞臺に現はれたのがSS(親衛隊)の黒い制服に身を包んだシュミット博士であつたが、彼こそは外様大名ならぬナチス黨員であるからには、經濟政策にナチス的の新機軸を出すかと思ひきやフーゲンベルグとさして異ならない手際だつた。それもそのはず、彼は親衛隊の制服こそ着てをれ、勤め先はドイツ第一の保險會社リアンツの重役様なんだ。保險事業といへばナチスのお氣に召す「創造資本」でなく、その仇敵視する「掠奪資本」に屬するものだ。この人から革命的の經濟政策を望むことは望む方が無理な話である。

先ごろ、經濟省のお役所仕事に一任せず、經濟を經濟界の手に返す主旨からまた經濟界整理の必要から、生れた經濟界十三部門の組織に際して、シュミット經濟相は全國經濟指導者に大電氣會社重役のケスラー氏を任命したが、ケスラー氏はアウトタルキスト(自給自足論者)の傾向強く、遂にシュミットと意見の衝突を來して辭職してしまつた。シュミット博士の方もあれやこれやで面白くなく、やがて博士自身が經濟相から逃げ出す結果となつた。辭職の名目は、病氣任に堪へ

ず、六ヶ月間を国立銀行總裁シヤハト博士に城を明け渡すといふのだつたが、實際の理由は、刻々悪化してゆく輸出を促進するために、間接的なマルク下落の手段を講ぜんとしつゝあつたシュミット經濟相の意見がシヤハトおよびナチスによつて阻まれたからである。

——かくして三度目の經濟相としてシヤハト博士が、ドイツ經濟金融界に君臨することとなつた。

こゝらでヒヤルマール・シヤハトの經歷をちよつとふりかへつてみよう。彼は一八七七年の生れ、大學を出て直ぐ銀行界に入り、ドイツ五大銀行の一つの重役にまでこぎつけたが、その當時インフレの後をうけた一九二三年のマルク安定に協力して功あり、翌二四年にドイツ国立銀行總裁となつた生え拔きの銀行屋さんである。ナチスが非難の總攻撃を集中したヤング案を生んだ一九二九年のバリ賠償會議に、彼がドイツ代表として出席したことは、彼の今日と思ひ合せて皮肉である。

一九三〇年、時のブリュニング内閣のデフレーション政策およびこれとならんだ輸出促進政策に反對して、彼は国立銀行總裁の椅子を投げ出したが、このころから彼は急速にナチスに接近し、フリーゲンベルグのドイツ國權黨とナチスとの聯合政權の讚美者となり、ヒットラーの經濟政

策は決して不穩でないことを力説して内外の實業家連の間を説き廻り遙々海を渡つて米國にまで遊説した。そしてヒットラー内閣成立とともに、直ちに迎へられて国立銀行總裁に返り咲いたのである。

それでは、シヤハトの經濟政策如何と聞き直つていふと、彼の追求してゐるところのものはインフレ的政策に依る國內的景氣の回復と、マルク價の安定との二つに要約出来る。

まづ勞働増進、産業振興のために國家が振り出す長期限の手形に對して、その割引方を引受けた。現在、その勞働増進手形の發行高二十五億マーク、そのうち十七億シークはシヤハトが總裁たる国立銀行の所有である。シヤハトがこれだけの信用を國家に與へたお蔭で、國家は赤字公債ならぬ赤字手形でドイツの産業をこの一年間に最悪期に比較して約六十%も文字通り振興することが出来たのだ。

が、そこまでは、赤字でも何でもまあよかつた。ところが、もう一方のマルクの安定の問題、これにはシヤハト先生も四苦八苦の難航をつゞけてゐる。英米や日本の對外貿易が、爲替安の關係で榮えてゐるのに反比例して、ドイツの對外輸出は日一日と悪化する一方だ。にも拘らず國內産業の回復で原料その他の輸入は逆に嵩む一方である。その結果、國際收支の帳尻はマイナスと

なつた。マルクは下落するのではないか？疑惧の氣配が國際市場に氾濫した。だが、マルクの安定はシヤハトの、またヒットラー政府の御題目である。何はさておいても、これにしがみつかねばならぬ。

そこで、まづ第一に各國に借金の利子元金のモラを宣言した。次いで貿易收支の帳尻好轉のため輸入の制限に乗り出したのだ。現在政府の御達示によると、全輸入品が二十五の輸入監督所の手厳格に統制されて、國際收支の平均をとり、マルク防衛に大いに努めることになつてゐる。しかし原料の輸入意の如くならずとすると、逆に國內産業の足なみが亂れ、折角赤字手形で呼び起した國內景氣に悪影響する。こゝにおいてかシヤハトは二兎を追うて失敗し、チレンマに陥つたのだ。

日英米が爲替安をもつてゐる今日、ドイツの試みた爲替安定と國內インフレとは、凡そ組み合せ難い代物であつた。シヤハトの政策は此の矛盾を物の見事に暴露した。が、今さら轉向して平價切下げをやつてみても焼石に水であるから、一層マルク價維持の政策を強行してゆくことにシヤハトとナチスは腹を決めてゐるのだ。

さて、全輸入を統制した以上は、國內の原料使用量をも統制せねばならぬ（たとへば紡績業は

四時間の操短を法律的に命令された）、原料不足から價格騰貴でも起ると輸出はますます不可能となるので、御布令で物價取締りをやらねばならぬ。かくしてドイツの輸入界を襲つた「計畫經濟」の黒雲は、今や國內經濟の上にその暗影を投げんとしてゐる。原料などはドイツの發明魂で何とかして代用物位は造つてみせると力んでみたところで、今直ぐ綿・羊毛・ゴム・輕金屬その他が天から降つて來るわけにいかぬ。さうだとすれば、ドイツ經濟界は國立銀行總裁兼經濟大臣たるシヤハト博士の統制を受けて、非常時の姿勢をとらざるを得ないこととなる。かくてシヤハトは、「經濟獨裁者」の名の下に登場しなければならぬ。

だが、これを見てナチスが全經濟の統制に乗り出したなどと考へることは大きな間違ひだ。私經濟のイニシアテイヴを認め、利潤を承認し、國家自身が經營をやつてはならぬとしてゐるナチス自身がかく計畫經濟を或る程度まで行つた所以のものは、現在のところこの強制された非常時の一本道に行く以外に道がないからである。

シヤハトは冷靜で、しかも強靱な性格の男だ。上品な銀行家のオブラートに包んだ烈々たるドイツ魂の所有者だ。彼は實際家、實行家であつて理論家ではない。しかし、熱意ある研究家で、かつ雄辯家だ。彼は政治家でも、またもちろん政黨政治家でもないが、彼に政治家の素質のあるこ

とは何人も認めてゐる。或る批評家は、彼が欲したならば卓越した戦略家になり得たであらう。といつてゐるが、彼が攻め立てる債權國の御歴史を向うに廻して、有無をいはずモラの一手で切抜けんとする強引の態度といひ、崩れんとするマルク貨をナチスと組んで最後の一线でグツと食ひとめてゐる手際といひ、この言葉を或る程度まで裏書きする。

が、僕は、何人にもまして、彼の別の一面をこの際高く評價する。それは彼がナチスの金融政策を、ナチスに文句をいはず餘裕を與へず資本主義の軌道に引戻してしまつた點だ。換言すればシャハトこそは、夢想的なナチスの金融理論を匡救した人物なのだ。

「利子奴隷の粉碎」のスローガンを掲げて中産階級や、また労働者層に迄もナチスの社會主義に對する憧憬と信仰とを植ゑつけた時代は過去に屬さなければならぬ。銀行を「高等的ユダヤ資本の警句で攻撃すること貨幣の基礎は財物にあるとして金を度外視すること、などは國民經濟のイロハを知らぬものであることを教へて、ナチスの金融政策を資本主義の正統的金融政策に轉向せしめる——この重大使命をドイツ經濟界乃至金融界から託されて、ナチスに接近し、筆に、口に實際的活動に倦まず撓まず實現して行つたのが、實にシャハトその人であつたのだ。

ナチス黨の經濟原論の創始者として、またヒットラーがその著書「わが闘争」の中で我黨の

「綱領製作者」と呼んだ例のフェーダー氏が、經濟次官の職を與へられながらも段々その影が淡くなつて、今回のニュルンベルグ黨大會には何處にゐたのかその存在さへ疑はれるに反し、シャハトが益々その姿を大映しにして國民大衆の前面に現はれて来るゆゑんものは、ナチスが權力掌握を一轉機として、如何なる方面に進んでゆくかを物語る最も大きな指標である。(一九三四年、二七)

九、エツケナー博士訪問記

晩秋の一日、記者は南獨フリードリツヒスハーフェンを訪れて、大空の豪華船 LZ 129 號——かつて日本の空に現れたツエツペ、ノ伯號の二倍もあるといふ——の巨姿を細部にわたつて観ることを得たが、同時にその建造者たる世界的巨人フーゴ・エツケナー博士にも親しく接してその抱懐する航空文明の現在および將來への展望についてつぶさに博士の抱負を聴くことが出来た。フリードリツヒスハーフェン——それはドイツとスイスとオーストリアとの國境に挟まれた

細長い國際湖ボーデンゼーの北岸にある閑靜な小湖港である。ボーデン湖は丁度わが國の琵琶湖ほどの大きさでもあらうか、鏡のような湖面にはスイスアルプスの銀嶺が美しく映じてゐる。エツケナー博士は青年時代この湖畔に病を養ひつゝ歴史と經濟學を研究するうちに、この土地にあつて永年飛行船の發明に粉骨碎身してゐたツェツペリン伯と相識り、遂にその片腕となつて働き、伯の没後はその後繼者となつたのであつた。故ツェツペリン伯時代から今日まで、あらゆる型の飛行船がこゝで發明され研究された。LZ I 29 號の名稱はLZ (Luftschiff Zeppelin) 第一二九番目のプランによる最新型であることを意味してゐる。

ツェツペリン飛行船製造會社は湖畔の西郊にある廣大な草原の眞中に聳える大格納庫二つ——少し小さい方が目下南米航路に就航中のLZ 127 號の分で大きい方が今まさに建造中のLZ 129 の分である。後者の格納庫に入つてみると尨大なその内部の空間一杯にひろがつたLZ 129 號飛行船は、すでにその特殊輕金屬合金の骨組みの表面にツェルローゼ塗料で銀色に輝く布を九分通りまで貼りつけを終了し現在は船首の大ゴンドラやその後方の操縦室および船長室や一般旅客室などの細部の組立て中であつた。

船體の全長二四八メートル、直徑四一・二メートル、眼で見た感じでいへばちよつと丸ビルの

二倍半といつた程度でその大きい割合にさほど膨れ上つた感じを與へないのは、その形態がスマートな流線型のためであらうか、LZ 127 號とくらべると、これは餘ほど細長く出來てゐる。この巨大な流線型の船體がこのまゝ大空に浮び出て悠揚迫らず白雲の間を縫うて大陸の上を越え大洋の上を渡つてゆく壯觀は、思ふだに人類文明の極致に吾人は到達してゐるのだといふ一種の感激をさへ覺えるのである。

わけてもその旅客のために設けられた快適な諸設備の素晴らしさはどうであらう！定員五十人の旅客の寢室、それを挟んで兩側に食堂と喫煙室と讀書室と、そしてさらにその兩側に展望窓をもつた散歩道さへ設けられてゐるのである、この散歩道をゆき來しつゝ眼下に大西洋を、あるひは太平洋をあるひはまたアジアの起伏する山脈帯をながめながら楽しい旅をつゞけるアヴェツクの群を見ることも直ぐに近い將來に現はれる事實なのである。

風呂の設備だけはまだないが温水のシャワーの設備はある、これは西洋人が日本人ほど風呂好きでないためでもし希望とあらば一風呂浴びて浴衣がけで煙草をくゆらす空の旅が必ずしも不可能ではないのである。その他甘トンの郵便貨物の積載、小型飛行機、自動車、ピアノ等の積載等、この劃期的な豪華船のもつすぐれた設備と性能とは到れり盡せりの一語につきる。

LZ 129 號の見學をへてから、格納庫横の木造本館の二階のエツケナー博士室で、記者は大きな事務机を隔て、博士と相對した、博士の後方の壁には剛毅な表情の故ツェツペリン伯の肖像が懸つてゐる、窓外の草原には牧牛の群が、冷たい野風に吹がれながら枯草を食つてゐる——、本年六十七歳といふエツケナー博士は、一見朴訥な好々爺で、科學者らしい神經質なところは微塵もなく、むしろ野人型のブツキラボーで、それでゐて情味の溢れてゐる人物だ。絶えず温顔に微笑を湛へながら、またロイド眼鏡をかけたりはづしたりしながら、記者の質問に答へてくれる

問 LZ 129 號は一九三五年のはじめに完成して五月には處女飛行する豫定ではなかつたか？

答 それがネ、南米リオデジヤネイロの格納庫の完成が遅れたのと、現在のボーデン湖では南に偏して不便であるのでライン地方に全歐の根據地を設けることになりフランクフルト・アム・マインに格納庫を建造中であるが、これもまだ竣工しないといふ譯で、とうど一ヶ年豫定を遅らせた次第だし、遅くともこのクリスマスまでには完成させ一九三六年の新春には大規模試験飛行をやり、三月には南米航路に就航させ、それから五月ごろまでに北米航路の試験飛行に就かせるつもりだ。

問 ツェツペリン飛行船による交通事業は企業的價値がありますか？

答 ある、政府の補助金なしに採算可能だ。もし今後三隻のツェツペリン飛行船が南米航路に就航するようになったら、着陸場、格納庫その他この種の經常費を三隻で分擔するから一層經濟的となる、そして三隻の各々が七五パーセントの旅客と郵便貨物とを積めば明かに企業的には可能だ。

問 米國は飛行機でハワイ、グアム島を経てマニラに達する南太平洋航路をすでに開拓し、いよ澳門に結ぶばかりになつてゐますが、この線にツェツペリン飛行船を用ひるとして、澳門とバタヴィヤとを結べばツェツペリン飛行船による世界一周航路が出現すると思ふが如何？

答 それは米國の問題で、われわれは何らそれについて考慮してゐない、が、ツェツペリン飛行船を用ひるならば、ロサンゼルスから太平洋を一飛びに香港、バタヴィヤまでの無着陸飛行は不可能でない。この種の世界一周航路の實現は遠い將來ではあるまいと思はれる。

問 日滿合併の航空會社が出来て東京と新京間に定期の無着陸航空路を開設するといふ話があつたが、日本から LZ 129 號購入の申込みがあつたら賣りますか？

答 よろこんで賣ります、他の國ならいざ知らず日本だから、政府の方も異存はあるまい、値段は一隻が六百五十萬マークなら賣つてよい（注、時下相場一マークが一圓四十錢として六百五

好きのドイツ人が、もうステッキをついて樹下をブラついてゐる姿があちこちに見出せる。僕達も、車を降りてスタヂオンの横に出た。工事に掘りかへしてゐる暗褐色の土が、凍りついた固さから春の生氣に蘇つたような新鮮な觸感で迫ってくる。昨日まではトゲトゲしたリンデンやカスタニエンの裸木の枝が、今日はもう嫩葉が少しばかり緑の色をのぞかせて、日の光に戯れてゐる。その邊一帶の枯れ果てた芝生のかげにも、青々とした草の葉が頭をもたげてゐる。その中に小さな薫の花が一つ咲いてゐるのを見つけて、僕達は無性にうれしくなつた。

海岸地方は暖流に洗はれてゐても、樺太の北緯五十度よりまだ少し北に位するベルリンは、一年の半分が冬の重々しい空氣の中に過ぎてゆく。そして、冬から夏へと素早く移行する北歐の自然では、春は僅かに一週日の短かい間だといつてよい。それだけに、春の來ることが、いかに人々にとつては待ち遠いことであらう。

四月に入ると、針のやうな鋭さをもつた寒風が止んで、生温かい肌に觸れたやうな風が吹く。そして時には強く、また冷たい雨をまじへて吹き荒れる。アプリル・ヴェツターの言葉があるやうに四月の天候は不順を極める。それはおなじ四月でも日本の花の四月とは遙かに隔たつたものである。しかし、この不順な天候が靜まるころ、樹々は、草は、一せいおそろしいテンポで生長

た。世紀への大きな贈り物の完成を告げるハンマーの音を、窓外に聞きつゝ記者は、この老博士に心からなる深い敬意を捧げざるを得なかつた。

十 リツベントロツプとナチス外交

ドイツの經濟國難打開策の一つとして、屢々傳へられるところのものに舊ドイツ領植民地の奪還がある。最近ではドイツの官吏の中に、ひそかにアフリカ赴任の内命を受けてゐる者があることは、かの南阿の英委任領のドイツ還付の確實性を思はせるに十分だ。英獨間にいかなる密約があるかは、未だ明白でない。が、少くとも次に來るべきものはこの舊ドイツ領植民地還付問題だ。しかしして、その當面の立役者として國際舞臺に、大きく脚光をあびて立つ者は、ドイツのフォンリツベントロツプ氏であらう。彼は先きの英獨海軍協定において獨の對英三割五分を獲得した殊勳者だ。かれはそのことによつて俄然國際的に有名となつた。餘りにそれが突然であつたために人々のはかれの人物に今なほ大きな疑問符を冠してゐる。たゞ彼の父が前總理フォン・パーベン氏と同窓の陸軍中佐であり、パーベン氏の仲介でラインの葡萄酒王ヘンケル氏の女婿となり、パーベ

十萬マークは九百十萬圓) しかしこの飛行船は買ったからといって直ぐに就航は出来ないことを心得ておく必要がある、機關士はモーター會社、操縦士は汽船から間に合はせるとして、それでも普通の乗組員で一ケ年間幹部の者で二ケ年の實地練習が絶対必要だ。大空の航行には、操縦術以外に氣象學海洋學その他航空全般の知識が必要で、その他優秀なパイロットの養成なども考慮しなければならぬ。それから飛行船の繋留、修繕、格納庫、ガス施設などにも莫大な費用のかかることも豫算に入れておかねばなるまい、そこで、ちよつと注意しておきたいのは、東京新京間のような短距離のところに果してツェツペリン飛行船が必要かといふ問題だ。あの程度の距離では、せいゝ大型飛行機で十分である、毎年九月十月の候に季節的に繰返される颱風の危険もあり、殊さらにツェツペリン飛行船のような老大な船體を飛ばせなくてもよい。

問 LZ 129 號は軍事的には如何?

答 純然たる民間の營利會社で軍部と關係はない、われゝの飛行船は、徹頭徹尾大空の豪華船であつて、戦争には適しない。

——と博士は語り終つて呵々大笑した、何といふ朗らかな態度であらう! かつて人類の夢であり幻想であつたところのものを、現實に可能にした偉大なる科學者とも思へない磊落な態度であつ

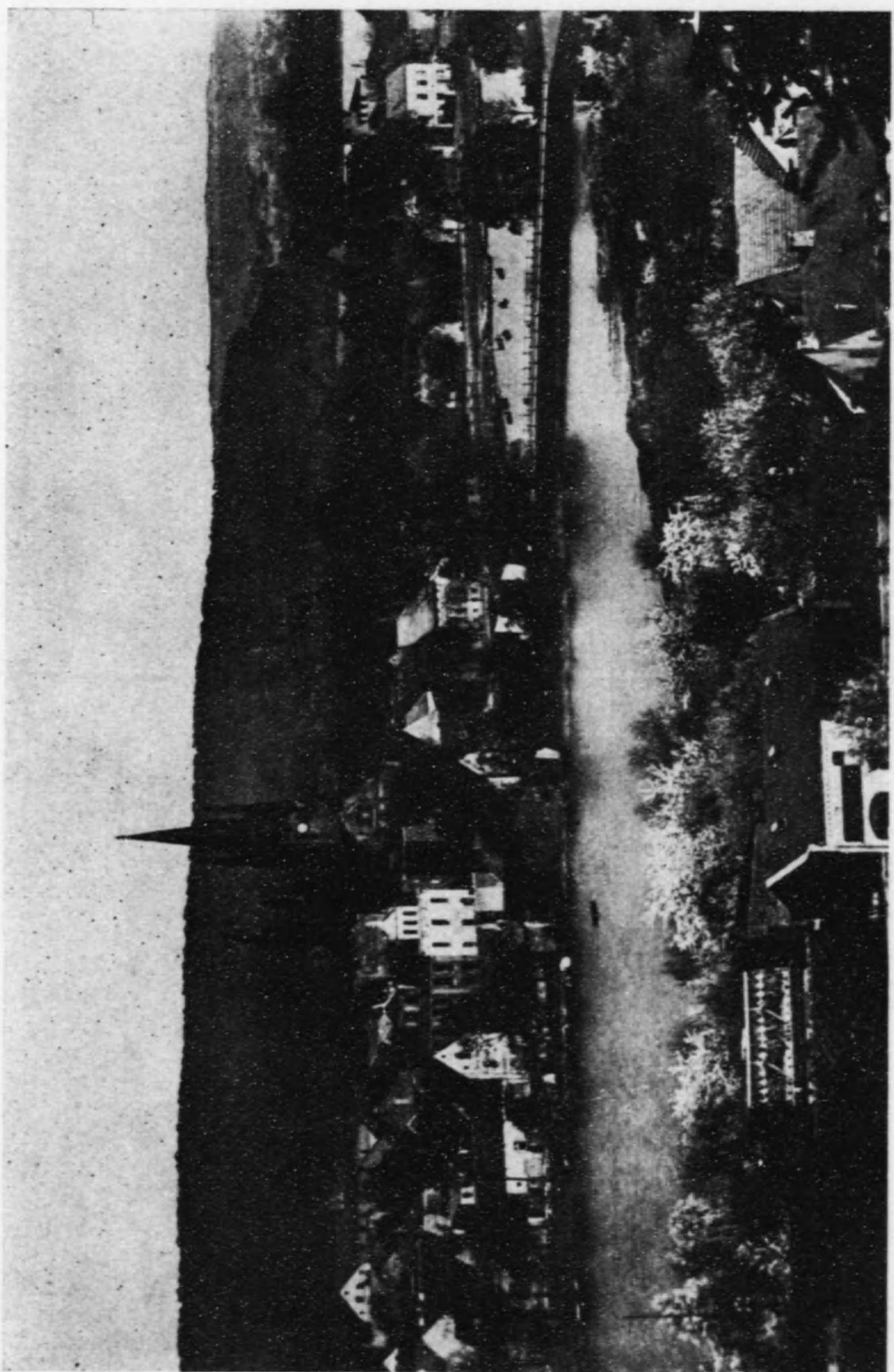
た。世紀への大きな贈り物の完成を告げるハンマーの音を、窓外に聞きつゝ記者は、この老博士に心からなる深い敬意を捧げざるを得なかつた。

十 リツベントロツプとナチス外交

ドイツの經濟國難打開策の一つとして、屢々傳へられるところに舊ドイツ領植民地の奪還がある。最近はドイツの官吏の中に、ひそかにアフリカ赴任の内命を受けてゐる者があることは、かの南阿の英委任領のドイツ還付の確實性を思はせるに十分だ。英獨間にいかなる密約があるかは、未だ明白でない。が、少くとも次に來るべきものはこの舊ドイツ領植民地還付問題だ。しかして、その當面の立役者として國際舞臺に、大きく脚光をあびて立つ者は、ドイツのフォンリツベントロツプ氏であらう。彼は先きの英獨海軍協定において獨の對英三割五分を獲得した殊勳者だ。かれはそのことによつて俄然國際的に有名となつた。餘りにそれが突然であつたために人々はいかれの人物に今なほ大きな疑問符を冠してゐる。たゞ彼の父が前總理フォン・パーベン氏と同窓の陸軍中佐であり、パーベン氏の仲介でラインの葡萄王ヘンケル氏の女婿となり、パーベ

ン氏からヒットラー氏への政權讓渡の際に黒幕的人物としてヒットラー内閣の産婆役をつとめた人物と知るならば、彼がヒットラー總統の信任を勝ち得た徑路が理解されよう。またかれのもつ流暢な英佛語の會話力は、外國語の不足するナチス首脳部にとつて見逃しがたい點であらう。最近に特命全權大使に任ぜられ駐英大使として親英政策に全力を傾注してゐるが、日獨防共協定にもヒットラー總統の特使として折衝の任に當つた。ヒットラー總統がムツソリーニ式に外相を兼ねるとすれば、さしづめリツベントロップ氏は政務次官であり、ノイラート現外相は事務次官の役割である。要するに從來の野猪的突進政策を放棄し、經濟的常態に復すべく慎重な外交工作を近隣諸國に對して開始せんとするナチスの重大な方向轉換期に當つて、リツベントロップ氏の動きこそは、ナチスドイツの何人のそれにもまして注目すべきであらう。

伯林郊外ヴェルダの櫻



Ⅶ ナチス・ドイツ紀行

伯林・郊外の櫻

ある科学者の話では、いまの地球は氷河紀の末期を辿つてゐるから、年ごとに暖かくなつてゆくといふ。それはとにかく今年のベルリンの春は昨年よりは餘程早く訪れて来るように思はれる。この間友人が新しい自動車を買つたので、それに同乗してベルリンのウエストエンドから南郊をぐるりと一巡してみた。明るい淡青に塗られた三四年型アドラーは、坦々たる大舗道に沿うて一直線に空間を切る。樹間に見えかくれする高級住宅街が車窓から消えると、赤松の林が左右に展開する。三六年のオリンピッククへの擴張工事に忙しいスタチオンの近くまで来ると、散歩

好きのドイツ人が、もうステッキをついて樹下をブラついてゐる姿があちこちに見出せる。僕達も、車を降りてスタヂオンの横に出た。工事に掘りかへしてゐる暗褐色の土が、凍りついた固さから春の生氣に蘇つたような新鮮な觸感で迫ってくる。昨日まではトゲトゲしたリンデンヤカス・タニエンの裸木の枝が、今日はもう嫩葉が少しばかり緑の色をのぞかせて、日の光に戯れてゐる。その邊一帶の枯れ果てた芝生のおかげにも、青々とした草の葉が頭をもたげてゐる。その中に小さな薫の花が一つ咲いてゐるのを見つけて、僕達は無性にうれしくなつた。

海岸地方は暖流に洗はれてゐても、樺太の北緯五十度よりまだ少し北に位するベルリンは、一年の半分が冬の重々しい空氣の中に過ぎてゆく。そして、冬から夏へと素早く移行する北歐の自然では、春は僅かに一週日の短かい間だといつてよい。それだけに、春の來ることが、いかに人々にとつては待ち遠いことであらう。

四月に入ると、針のやうな鋭さをもつた寒風が止んで、生温かい肌に觸れたやうな風が吹く。そして時には強く、また冷たい雨をまじへて吹き荒れる。アプリル・ヴェツターの言葉があるやうに四月の天候は不順を極める。それはおなじ四月でも日本の花の四月とは遙かに隔たつたものである。しかし、この不順な天候が靜まるころ、樹々は、草は、一せいおそろしいテンポで生長

し、瞬く間に緑の色で冬枯れの自分を装うてしまふ。木の芽はシュツ／＼と音を立てて伸びてゆくやうだ。そして二三日見ないうちに、もう花を咲かせてゐる。このテンポの早さは、ながい／＼間、冬の暴威に抑壓されてゐた草木の感情が一時に爆發したかのやうな凄じさをさへわれわれに感じさせる。それが四月から五月にかけてである。百花繚亂の春は五月のはじめだ。五月！ドイツのすべての詩人が五月を讃へるやうに、ドイツの春は五月だ。五月の聲を聞くと、人々はすぐリュックサックを背にして野に出で、森の中へ入つてゆく。草だ、花だ、そして小鳥だ。「自由は森林より」のドイツ人の言葉は、この時ほど強い共鳴を強ひられる時はない。

ベルリンの郊外には至るところ果しもない大きな森や、白い帆のヨットが鷗のやうに浮かんでゐる静かな湖水に恵まれてゐる。それは乾燥した大都會の空気に、みづみづしい生氣を供給する健康の源泉であるが、同時にまた都會生活者の乾燥し切つた心にも、フレツシュな水氣を與へるオアシスである。ヴァインゼーの湖畔に半裸體の日光浴に出かける人々、アインシュタイン塔のあるテレグラフェルヒの松林あたりまで散策を試みる人々、グルーネワルトの競馬場の空に歡聲をあげるために押出す人々、春になると人々は水のやうにベルリンの市街から郊外へと溢れ出てゆく。

ベルリン郊外の春で忘れられないのは南郊ヴェルダの櫻だ。ハーフェル湖にのぞんだ小高い丘陵一帯を梨花に似た白いドイツ櫻が、雲のやうに蔽うてしまふ。そしてベルリンから繰り出した花見客は、花下の小卓を圍んで、各種の果實酒に酔ふのである。

湖水の碧、櫻花の白、草花の紅、何といつてもヴェルダの春は美しい。千里緑紅に映ず、水村山郭酒旗の風の情趣はまた此處にも見出される。ことにこの邊一帯のひどく日本的な風光は、ともすれば東京か大阪の郊外の田園に遊んでゐるやうな錯覺にさへ誘ふ。たゞ水村山郭の酒旗の代りにナチスの鉤十字旗が隨所に春風に翻つてゐるのがわづかに身のドイツに在る意識に自分を引戻したけれど。

——今年のヴェルダの花の満開は、きつと早いに違ひない。(一九三四、三、一六)

ヒットラー氏の山莊を訪ふ

樂聖モツアルトを生んだオーストリアの古都ザルツブルグ——それから電車でドイツ領に入つ

て一時間餘りの地點に、ドイツ總統ヒットラー氏の山莊があると聞いてゐたので、チロルの旅からベルリンへの歸途、ザルツブルグに立寄つたのを幸ひ、その山莊を見ておく氣になつた。山莊といつても、平常官邸住ひのヒットラー氏にとつてはこれが一切の政治的繫縛から脱れて一私人にかへり得る唯一の自宅といつてもよいであらう。

あいにく午前中は雨だつた。銀糸のやうにふりそゞく細雨にそばぬれる町と野の上に、巍峨と聳えるザルツブルグの古城砦は墨繪のやうに美しかつた。ヨロ／＼と走る電車の窓から、この城砦の雨景が消えると、そこは獨逸の國境だつた。國境の粗末な關所がある。白や赤の名も知れぬ野花の咲き亂れる庭に、ドルフス前首相の死を悼む黒の弔旗が、重く雨中に垂れてゐた。

簡単に旅券の検査があつて通過、少し先きに進むと、軌道は雑木林の間を分けて山路にかゝる、そこにドイツ側の關所があつた。

ヒットラー氏の山莊へ行くといつたら、税關吏の一人は頓狂な大聲で車掌に『オーイ、この人はヒットラー・ハウスを見に日本からやつて來たんだとサー』と叫んだが、それがいかにも嬉しさうだつた。なるほど遙々と東洋の涯から異邦人がこんな邊僻な山奥に、山莊を訪ねることは稀であらう。

電車は清冽な谷川に沿うてグン／＼山の奥に入つてゆく。山腹に點在する農家は、屋根に石を置いた雪國のそれであるが、オーストリアの農家の貧相なのにひきかへ見違へるやうに立派で、生活程度の著しい差異を、アリ／＼と眼前に見せつけられる。そして各戸には日本の鯉轡のやうに長い竿からナチスの長旒を掲げてゐる。赤地に白丸、その白丸の中の黒い鉤十字、この驕る平家の赤旗のやうに威勢のよいナチス旗と、オーストリアの影薄い弔旗との對照！

やがて、終點のベルヒテスガーデンに著いた。雨は竭んでゐた。驛の構内には遠足に來たらしいヒットラー少年兵が群れてゐたが、日本人が珍しいのか周圍に集まつてくる。山莊はどの邊だと聞くと、こゝから五キロばかり山路を登つたところで、自動車なら十五分だと答へる。驛前はリュックサックを背負ひ、ドイツの剛健な國民性を象徴する樺の木杖をもつ人々で雑沓してゐた。タクシーを雇つて山路にかゝる。日本の伊香保か有馬あたりの山路に似た樹景の中を、二間中の新しい山道が上へ伸びてゐる。

「こゝです」と自動車から降ろされたところは、既に見物客目あてのホテルや茶店があつて、山莊の繪はがきなどを賣つてゐる。山莊はそこから二三町下に降りた山の中腹の一角だ。三々五々寫真機などを手にした見物客に出會ふ。山莊についてみると、門は固く閉ざされて「眼覚めケ原

山莊」の標札が立ち「立入禁止・猛犬あり」と書いてある。金網の柵に廻らされた千坪ばかりの芝生、家は二階建の純ドイツ式農家風。庭に赤いナチスの長旒が風にはためいてゐる。

山莊の二階の窓から女中らしいのが二三人、掃除の手をやめて、見物客の去來するのをながめてゐた。この家の主人公ヒットラー氏は國事多端、身邊の多忙で近頃はこゝへも姿を見せないといふ話、留守居役にはヒットラー氏の姉さんが、その小さい娘さんと二人で淋しく暮してゐるが外部との交渉を嫌つて、めつたに散歩にも出ないさうだ。

家の柵に沿うて、道を裏庭の方に下りると、四邊の眺望はカラリと豁けて、雄大な山岳パノラマが展開する。

視野を遮つて巨大な衝立のやうに巾廣く空間を區切るザルツブルグ・アルプスの連嶺、確固不拔の意志の如く突兀と天に迫る奇峰、その背景の彼方には純白の雪嶺が覗き、右手に豁けた平原には、遠く「可憐なる中欧の少女」オーストリアの盆地がつゞいて、茫々漠々涯しなき大自然の眺めだ。

空はだん／＼霽れて、空氣は明澄の度を加へて來る。だが、雲はまだムク／＼と旺んに谷間から湧き立つてゐる。そして、果敢な峻峰と、豪宕な巨嶺とがガツシリと四つに組んだ太い直線、

その間を雲の群は逃げ惑ふかのやうに右に左に曲線を描きながら狂ひ流れる。

風雲兒の崛起するによく、またかれが閑居するに恰好の天地とは、こんな自然をいふのであらう。ヒットラー氏の生れ故郷オーストリアのブラウナウ市はこゝからほど遠くない。北へ十里ばかり、獨逸國境の、イン河にのぞんだ明媚の地だ。その町の小税關吏の俸として生れたかれが、今や中歐に獨裁する「第三帝國」を打ち建て、自らその元首の椅子に座らうとは、何人がかつて豫想したことであらうか。

山莊から二町ばかり離れたところに、付け劍の銃を手にした親衛隊の兵士が立つてゐる。その後方に建築中の新しい家が見える。きくと、ゲーリング氏の別莊であるさうな。ゲーリング氏は陸軍大將、航空大臣、全國議會議長、國家祕密警察の總監、それからプロイセン州政府の首相をも兼ねて、ヒットラー氏の片腕として飛ぶ鳥も落す勢力家だ。この調子だと、も一人の片腕の宣傳相ゲツベルス氏もここに別莊を建てやしないだらうか、内相フリック氏は？ 黨首代理ヘス氏は？ 御大ヒットラー氏を圍んでともに山野を逍遙する光榮をめざしてわれもくゝと家を建てれば、またくゝ間にこの山間にはナチス領袖の別莊村が出現することであらう。すでに山莊に近く續々と建ちつゝある旅館や茶店、それから陸續として杖をひく見物客の群――

――もし再び僕がこゝを訪れる頃にはナチスの新らしきメツカとして、こゝはもう一つの雑沓境に化してゐるかも知れない。(一九三四、八、一四記)

ライン紀行

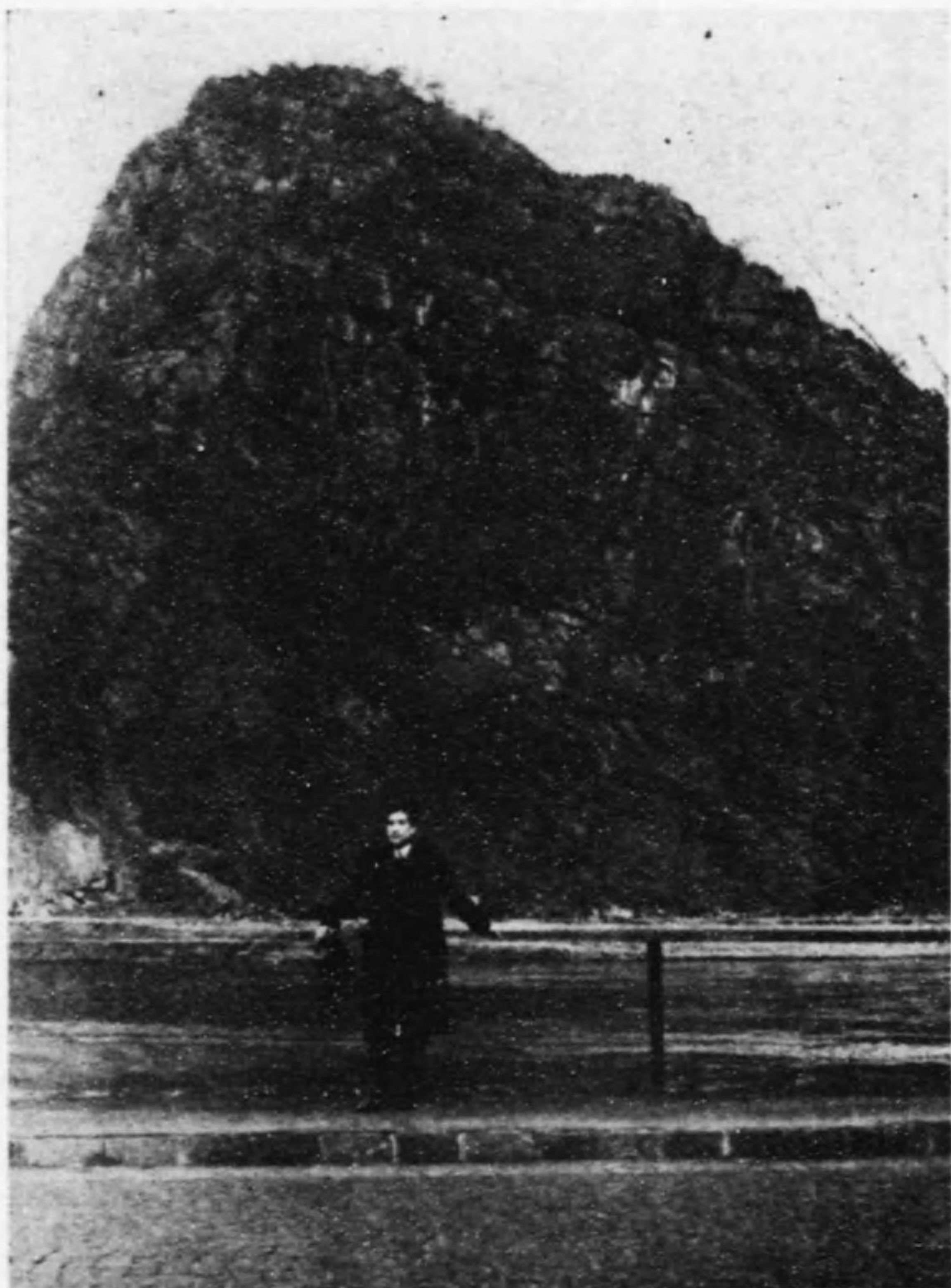
ドイツの軍備平等權の主張は再軍備の爆彈宣言となり、つゞいては當然ライン非武装地帯の解除の承認要求となつて現はれねばならぬ。そこで、先廻りした外國新聞には、ドイツはライン地方にバリまで届く砲身のおそろしく長い加農砲を据まつてゐるのだの、空軍根據地を既に幾つか設置してゐるのだのと、書きまくる。別にこんな興味にそゝられたからではなかつたが、機會を得て、ラインの春を訪ねることが出来た。來てみれば春とはいへ、やはり時節柄、ラインもまた緊迫した非常時色につゞまれてゐた。

スイスの湖水に發するライン河は、バーゼルあたりの上流では清澄の水色に眼のさめるやうな思ひがするが、ドイツ領に入つて鐵と石炭のザール川が合流し、商工業の中心フランクフルト市

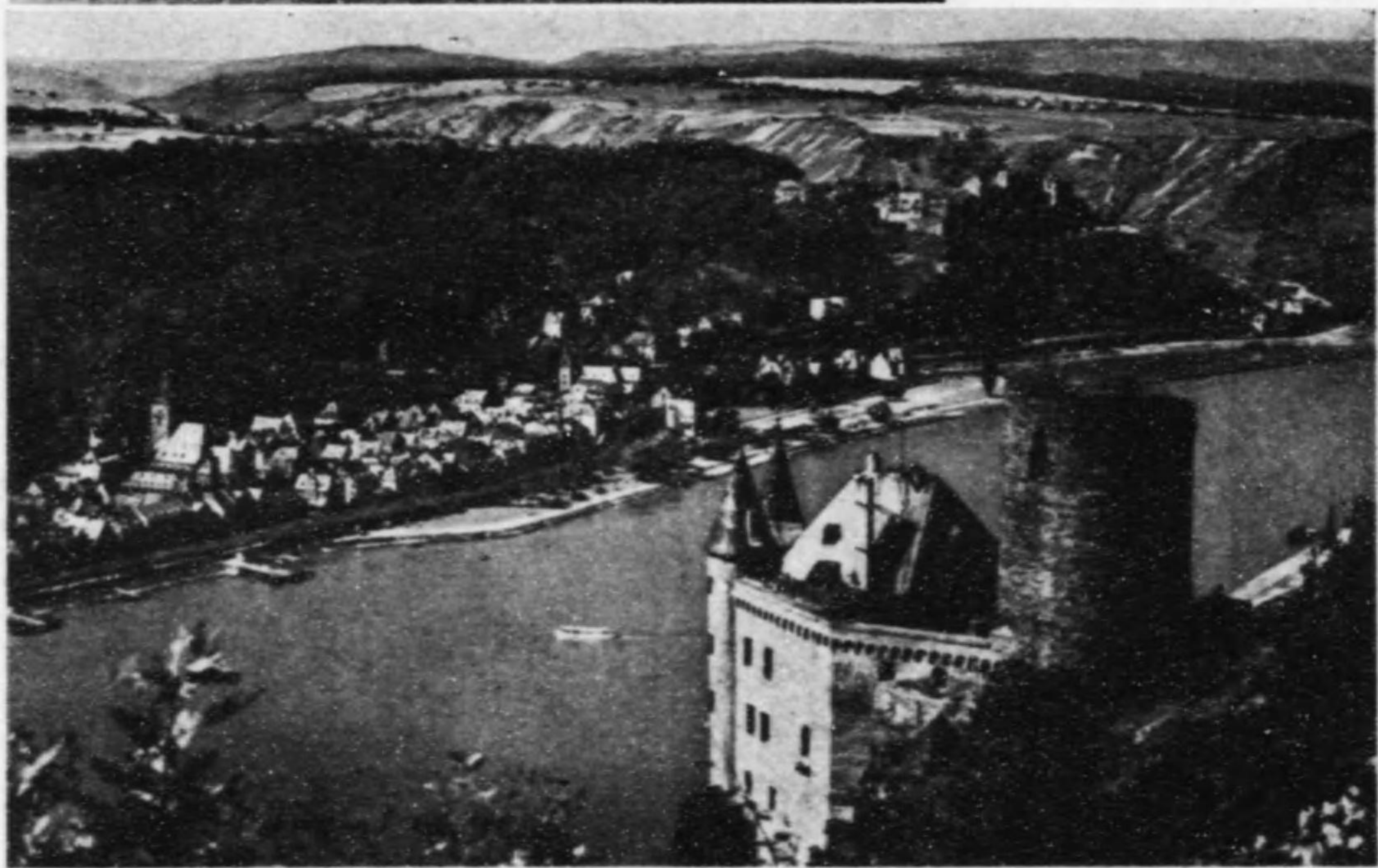
地方のマイン河などが混入してくると水色は次第に濁つて来る、下流の大學都市ボンや商都ケルンの邊では、すっかり暗褐色にそまり、そのままゲルマン民族二千年の歴史と傳説を秘めつゝオランダ領へ流れ去るのである。

最も風景絶佳のところに、例のローレライの奇巖が威壓的な風貌で川面に迫つてゐる、ドイツの春は五月だから、ラインも四月上旬ではまだ遊覧船も出ない。紅い桃花が麓の段々畑に咲き、白い櫻花もチラホラほころびかけてゐるが切り立つやうな兩岸の傾斜地にはまだ綠芽を出さぬぶどう樹が、黒い裸木のまゝにつき出て、あたかも張りめぐらした鐵條網の棒杭のやうな姿でならんでゐる、ローレライの巖上は芝生の平地で、レストランが一軒あるきりだ、そこに労働奉仕兵團の一隊が屯營してゐた。付近の開墾事業から戻つたばかりと見えて、土だらけの身體をバケツの水で洗つてゐた、短劍の手入れをしてゐる一人に「いつまでここに宿泊してゐるのか」と訊くと「遊覧客が立てこんで來たら、早速他へ移る豫定だ」と答へた。

巖頭から俯瞰すると、河の兩岸ともに鐵道が通じ、巖はトンネルで貫かれてゐる、對岸の鐵道は電化され、時として流線型機關車も轟進する。完全な自動車道路は河に沿つて構築され、その上をドイツ自慢の大型トラックが、ナチスの突撃隊や労働奉仕兵團を満載して、右往左往する、



一九三五・四・一一、ライン、ローレライの奇巖を背にして、著者



景風ンイラ

黒色の親衛隊服のモーター部隊が疾駆する。ヒットラー少年兵の自轉車隊がこれにつどく。河は悠々として流れるが、ひつきりなしに運送船が上下する。貨物列車二つの量を一艘に積載するといふ細長い貨物船は、ザール領域の石炭でも運ぶのであらうか、フランスやオランダの國旗を河風に靡かせて下つてゆく。日毎、外國旗を掲げた船がわが物顔に上下するのを見る毎にラインの人々の胸中には、ヴェルサイユ條約に對する激しい憤りが燃え上つたことであらう。一九一四年八月ヒットラー氏は大戰出征の一志願兵として、フランデル戦線に送られる輸送列車の窓から、生れて初めて「祖國の守り」ライン河を見たのであつた『朝霧の柔らかなヴェールを透して、曙光のほのかな輝射が、ニードーワルドの普佛戰役戰捷記念塔を照し出すのを見た時、長蛇の輸送列車の窓からは「ラインの守り」の國歌が流れ出て、私の胸は感激につぶれさうであつた』と著「わが戦ひ」の中に追懐してゐる。次代ドイツを背負ふ青少年の中には、このヒットラー總統の若き日の感慨をもつて、ラインを渡る日の來るを待つものは多いであらう。

あの自由を山河に求めてさすらふ「渡り鳥」^{ワグネル}は、ラインで見ることが出来なかつた。ナチス・ドイツになつて禁止されてゐるのである、軍國的統制を第一義とするナチスにとつては、自由と

か放浪とかの渡り鳥気分を肯定することは出来なかつた。ハイキングをするのもよい、だが、それは祖國を知るためであり、愛國の實を結ぶ身心の鍛錬でなければならぬ。徒らに口碑と傳説との香氣の中に酔ふことは許されないのである。かくて幾多のロマンスを生んだ「渡り鳥」は、ヒットラー少年團や少女團の、隊伍を整へた移動屯營におき代へられたのである。詩も藝術も「祖國の守り」の前に一步をゆづつたのであつた。平和の鳩が軍用傳書鳩と化する時勢なんだ、世に傳へる舟人を魅惑したローレライの妖女も、巖頭から姿を消さざるを得ない時代になつてゐるのである。

私は國際的溫泉郷バーデンバーデーで、夜更けて突如、ヒットラー少女團が非常呼集を受け各所の街頭で、分隊旗を圍む集團が嚴かな點呼を受けてゐるのを目撃した。小高い丘の展望臺に立てばフランス領は指呼の間だ。あのコンクリートで叩き固めて帶狀二百マイル、「鐵の防壁」といふ要塞が、萌え出る若草の下にかけをひそめてゐるのではなからうか、でなくてさへ、一朝事あれば直ちに空襲にさらされるこの地方の人々が月朧なる春の夜でさへ、おのづから眞劍にならざるを得ない氣持がわかるのである。

ラインを旅して氣のつくことはどの村、どの町でも、一步そこに入ればその表玄關ともいふべき最究竟の地點に、ナチス支部の門標いかめしく黨服の衛兵が立ちはだかつてゐることであつた。また、かつての自由主義的な新聞は、わづかに大都市にのみ衰殘の身を横たへてゐるに反し地方では家毎にその村、その町の黨支部機關紙が配布されてゐた。到るところでナチスに對する不平も耳にしたが、この現状では、ソヴェエト・ロシアが共產黨の地盤を持ちこたへて來た如くナチスの天下も容易にくつがへせるものでないことを感じた。國際都市ベルリンに一時は影をひそめたかに見えたナチスは、地方に却つて物すごい進出を試みてゐるのであつた。

私は古城の詩と傳説への追想にふける餘裕はなかつた。祖國の守りを急ぐラインの民とおなじく、來るべき戦ひの幻想の中にかつての兵士ヒットラーが軍用列車の窓に感激の涙したドイツの國歌を聞くのであつた。ラインは再び武裝しなければならぬ目が近づきつつあるのだ。(一九三五、四、一三ラインの旅舎にて)

南獨にキリスト受難劇を見る

創始三百年記念祭のオーバーアムマウガウ村

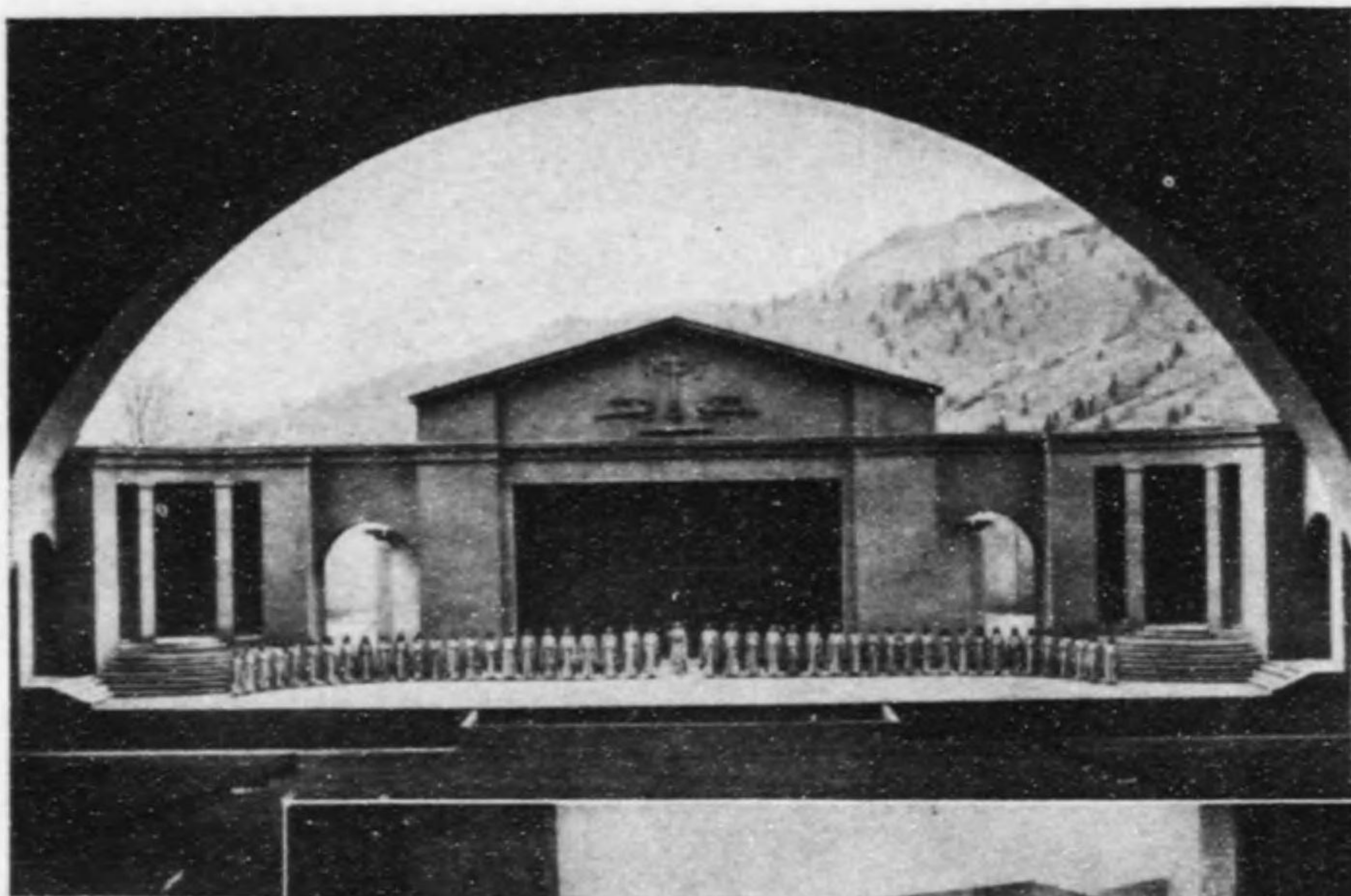
ベルリンから夜行で十三時間半あまり、南へ南へと走つて、塙國チロルとの國境に近くオーバーアムマウガウ驛のプラットフォームに列車がすべりこむと、そこに展開された異風景に、まづ度膽を抜かれた。

争つて旅客の手荷物を持ち運ぼうとする赤帽どもが大變な顔つきだ。禿頭會といふのは日本にあるが、これはまさに髯男オンパレード！ 大久保利通のやうな、カール・マルクスのやうな、クロボトキン、トルストイ、ラスプーチンからアブラハム・リンコルン、さてはソクラテスに關羽といった風に髯髯の中から眼だけ光つてゐるといふ連中がチヨコナンと赤帽を、これも肩まで垂れる長髪の上に載つけて右往左往する！

構内に群がつてゐる村童たちまでが、ブロンドや「にんじん」の赤毛とりませて、いづれも髪を長く垂れ流し、そして意外にも裸足で鋪石の上をビヨン／＼跳び歩いてゐる！

これは何としたことだ！ おどろいた瞬間、ハハア……尤も至極と、われにもあらずビツクリした自分がをかしくなつた。このオーバーアムマウガウ村こそ、全村民擧つてキリスト受難劇の俳優であり、かつ二千年前のキリスト受難時代の民となつて生活してゐるんだから！

村の老若男女は、そのままにエルサレムの民であり、イスラエルの王であり、ユダヤの商人で



キリスト受難劇の舞臺面

あり、キリストであり、シモンであり、マリヤあり、マグダレナであり、ヤコブであり、ピラツ
イスであるんだ。

人口三千に満たない僻村だが、土地高燥で日本の軽井澤を思はせる絶好の避暑地だ。避暑地と
してよりも一六三四年に悪疫ベスト退散祈願のために創始された、このキリスト受難劇が十年に
一度の割で繰り返されるうちに世界中の評判となり、受難劇見物に歐米各地から、この小天地め
がけて参集するもの一夏に何十萬といふ盛況——その意味での國際的觀光地となつてゐる。今年
は丁度その受難劇創始三百年記念祭がこゝで開かれてゐるので、南獨バイエルンの首都ミュンヒ
ェンで僚友城戸パリ特派員と落ち合つて、ミュンヒェンから西南へ電気列車でこゝまで運ばれて
來たのである。

X

受難劇の前回開演は一九三〇年で、一夏の興行で七百萬マーク（平價で三百五十萬圓）の總收
入があり、いろんな経費を差引いても、まだ村の莫大な借金を返済して、おつりが出たといふ話
だ。今年の劇は五月二十一日から始まつて九月二十三日までの四ヶ月間、一週に約二回の豫定で
總計三十三回、本格的の演出があり、その合間に一週二回ほどの小演出もあつて、前回に劣らぬ

成績をあげ、村の財政はもちろんのこと、村民の懐中もしたまふくらませて、今後何年かの生活の資を貯へようといふのである。受難劇こそは、農耕に適せぬこの村唯一の生業であり、村にとつては受難どころか福音劇なのである。

従つて、十年に一度といつても、村には受難劇の常設委員会があり、脚本、衣裳、道具、演技観客、宣傳等々の各部に分れて年中演技の練習や改善、研究を怠らず、脚本の臺詞などは、年々文學的に洗練されたものとなつてゐる。登場人物の配役は、専門委員会の詮衡と村民の投票とで決定するので、キリストになるときまつた男は、早速キリストらしく風貌をととのへ、また生活もキリストらしい精進ぶりを示して、舞臺と現實との一致に努力する。つまりこの調子で村全體が年がら年中、受難劇の雰圍氣の中に生きてゐるのだ。

今回の配役は、前回同様アロイス・ランクがキリストをやる。彼はユダに扮するハンス・ツヴァインクと共に村の民藝品の彫刻師である。マリアを演ずるアンニ・ルツクやマグダレナのクララ・マイルは村のインテリ娘。キリスト役のランクの親戚に當るライムント・ランクは此の村の村長で、またゲオルグ・ヨハン・ランクは舞臺監督だ。劇場專屬のオーケストラ、道具方から警備員等々、一切が村民自身による組織である。僕達は、村の外人客接待事務所指定されたヒルレル

ン城に宿をとつた。城といつても村はづれの小丘に立つ小ぢんまりした洋館だ。部屋に通されてフト机上の観客案内書を見ると、今年は前回に比し観客割宛ての宿舎は五五パーセント減らし、入場券も四〇パーセント少くしてあるが、決して不自由はかけませんと斷つてある。

前回に比らべて半減！ 何故であらう？ 一つは世界的經濟不況のために外人客の減少を豫測しての對策だが、もう一つにはナチスの宗教彈壓の結果とみて差支へない。殊に後者は、全村舉つてカトリック教徒であり、ドイツ全國を通じて最もナチス色の稀薄だといはれるこの村にとつては、大痛事であるに違ひない。だが、それにも拘らず彼らは「舊教撲滅・新教改革」の叫ばれてゐるナチス治下にあつて、キリスト受難劇三百年記念祭をやり抜いてゐるのである。今回の記念開演は、その點だけでも深い意義がある。

さて、僕達はキリスト受難劇の七月二十二日の演出を見ることになつた。劇は朝の八時から初まつて十二時に終り、晝夜引續きまた午後二時から六時まで通してやる。村の北端、硬球のテニスコートに隣する劇場に行つてみると、舞臺は野天だが観客席はツエツペリン格納庫そつくりの大きな鐵筋のトタン張りだつた。

五千人の椅子席、詰めれば六千人まで見物出来る。僕達はアメリカ人の家族連れとイタリの舊

教僧侶との間に挟つて席についた。舞臺を見ると石造の古代ローマの宮殿と街路とが常設的につくつてある。殿堂の上に青空がのぞき見られる。燕が宮殿の屋根に巢をつくつてゐるのがピーピーと舞臺から観客の頭上を飛び交うてゐる。

劇は全部で十六幕、——エレサレムに赴くキリストから初まつて、マリアとの訣別、ユダの叛逆、告訴、キリストの逮捕、死刑の宣告、十字架を負うて刑場へ、ユダの悔悟の自殺、キリストの死刑とその再生まで——各幕の初めに必ず合唱がある。

この合唱は、五十人近くの男女が揃ひの法衣を纏ひ一列に舞臺の前方にならんで、オーケストラの奏樂に和しつゝ、「痛ましやキリスト様は……」といった具合にキリスト受難に至る筋を説明的に唱つてゆく、その後方に宮殿の幕が上つて十幾場面かの活人畫を見せて、劇の筋の複雑多岐を巧みに要約してゐる。

午前部は無難だったが、午後になつて驟雨襲來、舞臺の登場人物はズブ濡れだが、ひるむところなく眞摯に劇をつゞけてゐる。だが、観客席は天井板に叩きつける雨の音で、舞臺の聲はサツパリ聞えない。観客はいづれも買つて入つたテキストの頁を繰つて筋を追う。午後の驟雨はこ

の山里の名物であるらしい。雨がやむとまた燕がピー／＼と鳴きながら観客の頭上に各種の交錯線を描く。

演技の點で感心したことは、大衆動員のうまさだ。組織と訓練と全體の調和とは、ドイツ人が特に他國民より秀れてゐる特性だが、三百名近い人數を舞臺に登場させて一糸の亂れなく、群衆の怒濤のような殺到、あるひは靜かな大河のような流動を、極めて自然にこなしてゆく手際は、それだけでもこの劇が世界的に宣傳される價値は十分あると思つた。

親子代々舞臺に立ち、長年の經驗と研究とが蓄積されてゐるためか、各俳優に一人として下手なものはない。端役なら端役なりに、子役なら子役なりに、すべてが上手だ。街上でキリストの訓へに耳を傾ける群衆の中にまじる子供達の一人々々が、いかに巧みな芝居をやつてゐることよ、磔殺への刑場に引かれゆくキリストを石をもて追ふごとき大衆の喧騒と嘲罵の渦中に、そんな手荒なことをしなくてもオロ／＼してゐる老人や、うるんだ瞳で見送る少女が一隅に佇んでゐることなど、舞臺の隅々までが緊張して劇を生きたものにしてゐる。

たと遺憾なことは、全員残らず上手な半面に、一人としてホントに上手な舞臺の上の天才がゐないことだ。キリストにしても、清楚として端然たる教祖の佛は出てゐるが、あの感激的な巷に叫ぶ豫言者の迫力で観客を引きつけることは皆無だ。反逆兒ユダにしても、バーナード・ショウの祖先のような風貌をしてゐるこの男に、反逆兒らしい太々しい熱情が見られない。澤正の熱、菊五郎の至藝、さういつた藝術から來る靈感は、結局は天才の出現にまたねばならぬものだらう。

劇を見た習日、オーバームマウガウの西郊にリンダーホーフ城を訪れた。バイエルン最後の王ルドヴィヒ二世が國幣を傾けて榮華の夢を追うたロココ式宮殿だ。宮殿への一本道を走る自動車の運轉手が、やはり長髪を垂れてゐる。

「君はどんな役に出るんかね？」と訊ねると「イスラエルの民衆です」といふ。「その他大勢」もしくは「馬の脚」である。そして僕達が宮殿を見物中出る幕があるからといつて引返へして行つた。後で給料のことなど訊くと、一回二マルク（一圓）で、全期間を通じて百五十マルク程度とのことだつた。子供が全期間百マルク、大して差はない。

事務所の發表では「主役キリストが全期間六千マルク、マリヤ、マグダレヂ、ユダなどが三千

五百マルクから四千マルクだ。純収入の大部分は個人よりも、村の財政そのものにふり向けられる性質をもつてゐるらしい。

x

ユダヤ人の種族的愛國心を却けて全人類に普遍な天國の愛を説いたキリストは、そのゆへに十字架上に磔殺された。二千年後の今日、ナチスによつて作興されつゝある種族的愛國心は、キリストのこの全人類的な博愛に對して戦ひを挑んでゐる。オーバームマウガウの受難劇の舞臺と現實と——僕は遠く人類の歴史を念頭に跡づけつつ、一種の感慨なきを得なかつた。（一九三四年、四）

ナチ獨逸を往く 終

昭和十一年十二月十七日印刷
昭和十一年十二月二十六日發行

ナチ獨逸を往く 定價壹圓

著者 大塚 虎雄

東京市牛込區新小川町三丁目十四番地

發行者 福迫 重樹

東京市小石川區米川下町七十一番地

印刷所 邦立舎印刷所

印刷者 小野塚 邦次

東京市牛込區新小川町三丁目十四番地

發行所

亞里書店

振替東京一三一二五二

大賣捌所

井田書店・大隆阪館屋
東京堂・北

姓名	年	月	日	籍貫
張	一	九	一	江蘇
李	二	八	二	浙江
王	三	七	三	山東
趙	四	六	四	河南
陳	五	五	五	湖北
周	六	四	六	安徽
吳	七	三	七	江西
孫	八	二	八	福建
鄭	九	一	九	廣東
劉	十	十	十	廣西
楊	十一	九	十一	雲南
朱	十二	八	十二	四川
張	十三	七	十三	貴州
李	十四	六	十四	陝西
王	十五	五	十五	甘肅
趙	十六	四	十六	山西
陳	十七	三	十七	河北
周	十八	二	十八	遼寧
吳	十九	一	十九	吉林
孫	二十	十	二十	黑龍江

14, 23



